コザクラだより

第 103 号
2016.9.16 発行
（平成28年）

ユウパリコザクラの会
事務局
〒068-0412
夕張市鹿の谷東丘町 3
水尾君尾方
TEL/FAX 0123-52-3306
携　帯 090-8632－8928
E-mail
kozakura@m8.dion.ne.jp
ホームページ
http://yuparikozakura.org/

ようこそ花の夕張岳へ

環境大臣表彰を受賞しました。

平成 28 年 4 月 20 日　新宿御苑インフォメーションセンターにおいて、当会は平成 28 年「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰（保全活動部門）を受賞し、藤井代表と水尾事務局長が出席しました。

夕張岳を次世代へ

事務局長　水尾　君尾

当会が、平成28年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰の栄誉に授かることとなり、4月20日の表彰式典へ藤井代表と水尾が謹んで上京致しました。

新宿御苑での式典は環境副大臣から「国の天然記念物である、夕張岳の高山植物群落及び蛇紋岩メランジュ帯について保全活動を行っており、平成9年の大量盗掘やエゾシカによる深刻な高山植物の被害などにも粘り強く対応するなど自然環境の保全及び普及啓発活動を推進」している当会の27年の功績が讃えられ、全国35（団体・個人）の方々と厳かな授与式が執り行われました。

レセプションが催され、環境大臣官房審議官、自然環境計画課長、国立公園課長、野生生物課長ら幹部との懇親会で、藤井代表は列をなし大臣官房審議官に「夕張岳ガイドブック」を手渡しながら、夕張岳が国の天然記念物指定20周年を迎えたことをアピールし、受賞の感謝を述べました。



大臣官房審議官へ PR

表彰状

保全活動部門
ユウパリコザクラの会殿

貴殿は地域の自然環境保護活動に積極的に取り組まれ、自然環境の保全に尽力されたその功績は誠に顕著なものがあります。よってみどりの日にあたりこれを表彰します。

平成二十八年四月二十日
環境大臣　丸川　珠代



新宿御苑にて35団体・個人の受賞者たち

環境大臣表彰受賞
鈴木直道夕張市長へ報告

5月2日藤井代表と水尾事務局長及び上野会計長が鈴木直道夕張市長、小林信男教育長を訪れ、今年度の「みどりの日」環境大臣表彰の受賞報告を行いました。藤井代表は、夕張岳が国の天然記念物に指定されて20周年という節目のこの年に、保護保全活動に取り組んできた当会が環境大臣表彰を受けることは大変栄誉なこと、これも関係機関や各団体など皆様のご支援ご協力の賜物ですと感謝を申し上げました。

鈴木直道市長は、当会が長きに亘り本当に惜しまぬ努力を続けていると慰労され、コザクラの会の活動は既に全国区で認められている素晴らしいことですと敬意を表しました。そしてまた「今年も市内の子ども達を夕張岳登山の体験をさせたい」と協力を求められました。

尚同じ日に夕張市議会議長へも受賞の報告をいたしました。


鈴木市長・小林教育長と


厚谷市議長と

環境省では、自然環境の保全（4 部門）に関し、顕著な功績があった者（又は団体）を表彰し、これを讃えるとともに、自然環境の保全について国民の認識を深めることを目的に、平成 11 年度から毎年度、『「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰』を行い、平成 28 年度は全国から 35 件が選ばれました。

こざくらだより　第 103 号

アポイ岳ジオパーク仕掛け人を招いて

夕張岳の天然物指定20周年記念講演会

5月14日　夕張市民研修センター

5月14日市民研修センターにおいて、夕張市民を対象に講演会を開催しました。

花の名山として知られる夕張岳には約六百種の植物が生息しています。また蛇紋岩や輝緑岩などからなる特殊岩類が広範囲に分布し素晴らしい自然環境を有することから「夕張岳の高山植物群落と蛇紋岩メランジュ帯」として国の天然記念物指定（平成8年6月）を受けて今年は20周年となります。アポイ岳のユネスコ世界ジオパーク認定は様似町が官民一体となって取り組んだそうで、こうした活動に夕張でも学び合おうと、様似町議会議員でもありアポイ岳ファンクラブの水野洋一氏を招いて開いたものです。

水野さんは、ジオパークのはじまりは「地域に根差した図書館づくり」から「豊かな自然環境を生かした」図書館活動＝情報発信・学習の場として取り組みの広がりがジオパークにつながったと語りました。最初の申請は専門的過ぎると差し戻されて、再チャレンジで認定されたと振り返り正に（ZERO）「プロジェクトX」の世界だったと、中島みゆきの「ヘッドライト・テールライト」を熱唱、歌の終わるころでは感涙でした。



講師　水野洋一氏



応援スピーチ 夕張自然科学研究会　福本昭男氏





写真背景の壁に貼られたリーフレットにある「遺産」の文字はミスプリントで　した。正しくは＂アポイ岳ユネスコ世界ジオパーク認定＂でした。訂正します。



応援スピーチ 日本山岳会北海道支部　長谷川雄助氏

5月14日午前　平成28年度の総会開催、活動計画・予算案ほか討論して決定しました。









ヒュッテ管理委員会の存在意義は大きい！

管理委員会委員長　長谷川　雄助

コザクラの会に加入後、実働的な貢献度は殆どないといえる者が、長らく会の運営に力を注いでこられた秦野公彦さんの後任として、果たして引き受けて良いものかと、２０１６年度総会議案書に添付された役員体制表を眺めながら考えていました。代表や事務局長に問い合わせるも「お願いします」の一言です。しかし、管理委員会のスタッフは、これ以上求めることのできない人材に充ちています。それで決まり。名ばかりの委員長になるかもしれないが、お引き受けすることにしました。

２００８年、解体の危機にあったヒュッテの存続を夕張市と粘り強く交渉を続け、市から保守管理の委託を受けたことから始まった。そして現在、会員の手作りの立派なヒュッテが建ち、炊事棟も建設が急ピッチで進められてきている。

本来、自然保護団体として発足し、林野庁長官賞や沼田眞賞までを受けるほどの活動を展開するコザクラの会が、なぜか市が管理するヒュッテを解体、建設、保守管理という実力のある登山団体でもできないようなことを成し遂げているのだろうか。その根底にあるのは、『夕張岳を守ろう』という極めて単純な目標から始まっていることだ。明らかに顕在化している地球の気候変動、誰しもが簡単に山登りをする登山の態様の変化、エゾシカなどの食害の増大…。山を取り巻く環境は大きく変化している。夕張岳もその環境は決して良い方向には向かっていない。

そういう中での夕張岳ヒュッテの存在意義は、何だろう。一つは、登山の安全の拠り所であろう。登山者は「山小屋に見送られて登り、山小屋の屋根を見て無事下山を感じる」という。当然、天候急変時や体調不良時などのときの緊急避難場所としてその威力を発揮する。もう一つは、山を守るという活動の拠点としての存在意義がある。管理人がたった一人だったとしても、その山を守っている人がいるということを感じる。

また、幟を持った大勢の活動者が集まってきて、ワイワイガヤガヤと騒がしくしているという情景が、登山者には「この山は守られている」という安堵感を与える。そこで、登山者自身が登山の安全を守らねば、とか、山の自然を壊さないようにとかの意識が生まれるはずだ。

ヒュッテ管理委員会は、夕張市役所、夕張市教委、空知森林管理署、空知振興局などの多くの関係機関からの指導、助言をいただきながら、自分たちで建てたのだという意識を強く持って、安全登山、自然保護の幟を高く掲げていかねばならない。

安全登山研修会と第１回森林パトロール（兼コースロープ設置）

会員　菊地　宏治

６月11日（土）恒例の行事となった市民研修会が行われました。今年は８月11日が「山の日」として制定された最初の年ということで、研修会のタイトルも「山の日 制定元年と安全登山について」というものでした。講師は長谷川雄助氏で元日本山岳会北海道支部長、北海道高山植物保護ネット事務局長です。日頃からハードなスケジュールをこなして、83歳とは思えない活動をしていらっしゃいます。研修会は自らのご経験に基づいた安全登山についてのアドバイスをいただきました。

ヒュッテに移動して、12日（日）は第１回森林パトロール、登山道補修・整備・ロープ張り等の作業に備えます。例年この時期に登っていますが、まだ山道は雪も相当量残っていて、倒木も多くあるので足元はスパイク長靴に鋸を持って出陣です。

冷水コースを登っていきますと、倒木が何本かありました。なるべく木は伐らないで残していきたいですが、迂回によるコース拡張の方があとあと深刻な事態になる事も多く通行の妨げになる部分を最小限に処理します。切らないで移動できる場合は３～４人がかりでヨッコラショと持ち上げコース外に倒す場合もあります。どうしても切らないとならないケースは鋸の出番です。生木を切るのは意外と苦労が多く、まず切りやすい細い場所を何カ所か切って作業をしやすくします。そのあと支障となる本体を切るのですが、直径15㎝ほどの木でもなかなか手強く簡単には切れません。あと数センチというところで鋸が挟まって動かなくなってしまう事もしばしば。二人いないとなかなか難しい作業です。

石原平、蛇紋岩崩壊地、一四〇〇ｍ湿原、吹き通しのロープ張りの作業も順調に進み、馬の背コースを下山しました。山の雪は例年と比べて湿原入口から一四〇〇ｍ湿原までの平らな部分は比較的多く、前岳のトラバースの斜面の雪は例年よりやや少なく感じました。



今年度の始まり
道普請（みちぶしん）

代表　藤井　純一

今年の林道はいつになく雪解けが早く、5月の連休前に終点の駐車場まで入ることができた。3月・4月にもヒュッテの様子を見に行ったのだが、この時見たのは駐車場から第1カーブにある暗渠の鉄柵に石が詰まって上流からの雪解け水が溢れ、道路の積雪の下を流れてスノーブリッジを作っていた。恐ろしい予感がした。

案の定、雪が解けて道が現れた5月、溢れた水が駐車場を我がもの顔に流れたのだろう、それはそれは恐ろしい光景を目の当たりにした。呆然としてもおられず、幸いにも柳の倒木が沢山あり、緊急避難として水の流れを変更するため使わせてもらった。何とか駐車場手前の左股橋付け根の浸食拡大を防いだものの駐車場は使える状態にはならなかった。

森林管理署に報告したら左股橋が危険だと判断され、橋の手前で通行止めになった。私たちはこれ以上道路の洗掘が進んだら取り返しがつかないと思い、暗渠の中に入って流木防止鉄柵に詰まっている石を金てこバールで突つつき、何度も水の突破口を作るのだが水の勢いは尋常ではなく、数十分ですぐに詰まってしまった。その後ヒュッテ用事の度に数回突破口を開けたが徒労に終わった。その時の情景はまるで映画「黒部の太陽」の石原裕次郎か、青函トンネルを造る「海峡」の高倉健のシーンのようであった。

あるとき水の流れが収まり鉄柵に詰まっていた石が取り除かれていた。森林管理署が除去してくれたようだ。再び大雨が来て鉄柵に石が詰まったら今までの努力が無になると思い、緊急措置として鉄柵を少し浮かせて様子を見ることにした。その後森林管理署の了承を得て、7月の「子ども交流事業」に集まった子供たちに「道普請（みちぶしん）」のことを話し、子ども達の手を借りて鉄柵を完全に撤去した。その後は8月の台風の大雨にも流れは順調である。今気掛かりなのは暗渠流入口のすぐ上に鎮座してる一トン以上もあるかと思える岩石がいつ崩れ落ちて再び暗渠を塞ぐのではないかということである。また8月下旬の大雨で林道ゲートから2・8キロ付近で道路が決壊したのでひと月以上早く林道は閉鎖された。現在は国道からの市道も通行止めにされている。



ボクとワタシも道普請

ヒュッテの建て替えから始まって炊事棟建設へと続いてる「普請」はもうボランティアの域を超えた活動かもしれない。早く建設作業を終わらせ、自然保護保全活動、子どもの自然教育に力を注ぎたいところである。アントニー・ガウディの聖ファミリア寺院のようにヒュッテ関係作業は永遠に続くのだ、なんて言って大工作業を楽しんでいるのではないかと思える不振者もいる（オヤジギャグで失礼）。とにかくネバーギブアップの精神でこれからも夕張岳に関わる活動を続けたいと思っている。

（参考）
普請（ふしん）
（意味）家を建てたり修理すること。道路や橋などの土木工事。
（普請の語源・由来）禅宗の用語で、寺の堂塔建造などの労役に共同で従事してもらうことを言うようになったのは、「普く（あまねく）人々に請う（こう）」という意味で、多くの人々に呼びかけて労役についてもらったことに由来する。
語源由来辞典より要約

アポイ・ユウパリ交流学習登山

7月16～17日　　会員　伊藤　泰弘

アポイ岳ファンクラブとの交流は、夕張岳が国の天然記念物に指定された平成28年に始まったので今回で20年目を迎えました。20年前のお互いの課題を再認識し交流登山会が始まりました。

林道で崖崩れがあってコザクラの会が当番となるのは3年ぶりです。その初日はヒュッテ前でジンギスカンによる楽しい懇親会。炭火で焼くとうもろこしも大評判でその中みなさん思い思いの話しで盛り上がりました。

翌日の夕張岳登山は、北海道新聞夕張支局から支局長とカメラマンも参加して始まりました。昨年のアポイ岳での交流登山は雨天中止でしたが今年は好天に恵まれ、昨夕のアルコール質を汗に変えながらの登山となりました。今回は「国の天然記念物指定20周年」の幟をもっての登山となり、その登山風景は北海道新聞夕刊に載りました。

登山後は恒例の流しソーメンのお出迎え。火照った体にヒンヤリしたソーメンは格別の味です。

来年は様似町アポイ岳での縦走登山が計画される予定です。アポイ岳ファンクラブのみなさんと楽しい研修登山会です。皆さん参加しましょう。



こざくらだより　第 103 号

夕張岳の自然で のびのびと

お習字・川遊び・工作・道普請・お勉強そして登山もしました

第8回「旧産炭地域 子ども交流事業」

7月23日～24日

「がんばれ北の大地・夕張応援基金」助成





























夏の夕張岳に咲く花々

会員　阿部　博子

産炭地域子ども交流事業のメインは夕張岳の登山です。天気に恵まれ元気いっぱいの子供たちとヒュッテからスタートです。

冷水コース登山口から平坦な登山道が続きます。薄暗い樹林帯は退屈でしょうか。そんな時は道端の花々に目を向けてみましょう。まだ咲き始めといった感じですが、エゾアジサイが咲きだしています。エゾアジサイは二種類の花が咲きます。花弁が4枚の大きな青い花は飾り花（装飾花）、そして真ん中には淡青色の小さな花が密集しています。実はこの小さな花々が本当の花であり、ここに実ができるのです。飾りの花もついているなんて贅沢な植物ですね。

水場の冷水沢で冷たい水を飲んで大休止。水辺にはオオバミゾホオズキ、フキユキノシタが涼しげな姿で咲いています。

針葉樹林帯では、ゴゼンタチバナ、ミヤマキヌタソウ、エゾノヨツバムグラなどが咲いています。

馬の背コースと合流する辺りから、イチヤクソウ科のコバノイチヤクソウ、ラン科のキソチドリ、アリドオシラン、ミヤマチドリの姿も見られます。

石原平を埋め尽くすシラネアオイも今は実をつける時期です。ユニークな形の果実の中には種が入っていますが、はじけるのは晩秋です。

久々にカノコソウの姿も見かけました。

望岳台からさらに進むと、ミソガワソウ、ミヤマチドリ、そして山に咲くバラ、オオタカネバラが下界のバラより質素ながらも、ひときわ鮮やかです。そしてシナノキンバイも咲き始めています。私たちの今日の「山頂」憩い沢まではもうすぐです。

憩い沢は咲き始めたシナノキンバイで埋まっています。じっくり眺めてみると、花期は終わり頃ですがタヌキモ科のムシトリスミレやスミレ科のキバナノコマノツメ、そしてハクサンチドリ、イワイチョウ、ミヤマキンポウゲ、ヒメイワショウブの姿もあります。

休憩していると、山頂を目指していたグループが戻ってきました。吹き通しへ行く手前にヒグマがいて動かず、やむを得ずそこから引き返してきたとのことです。

下山も同じルートを使います。登りで見たエゾアジサイの花が、朝より開いているように思われます。

夕張岳の短い夏を謳歌する稜線の花々を見ることは叶いませんでしたが、それでも樹林帯や亜高山の花々を楽しむことができ、満足な一日となりました。

熊さんが飛び入り参加

会員　伊藤　泰弘

「がんばれ北の大地・夕張応援基金」による交流事業も最終回を迎えることになりました。今年は「普請」というテーマのもと交流事業が始まりました。例年との違いは子ども達が道普請（みちぶしん）をしたことです。雪解けの鉄砲水で山道の一部が決壊した処を、子ども達が思い思いの栗石で補修しました。

子ども達が川遊びをしている写真が7月30日の北海道新聞夕刊一面に載りました。写真の様子から子ども達の楽しさが伝わってきます。

恒例の登山は4チームに分かれそれぞれの頂上を目指し元気に登りました。でも、頂上までは行けませんでした。何故かというと釣鐘岩付近で熊さんが飛び入り参加して来たからです。この熊さん腰が重くなかなか動きません。夕張岳頂上を目指していたチームは仕方なくここから引き返しました。

今回の参加者は子ども15名、大人11名でした。それぞれが夏の自然を楽しみました。来年以降は、一部メニューを見直し引き続き子ども交流事業を行っていくことを考えております。また元気な子ども達が来ること楽しみにしています。



合同パトロールに参加して

会員　長谷川　雄助

今年も、6月18日(土)にヒュッテ開きセレモニーがあり、19日(日)合同パトロールが行われた。さらに7月7日(木)空知総合振興局を中心に協議会メンバーがパトロールの幟をたてて啓蒙チラシを配りながら登山者に安全登山と高山植物の保護を訴えた。恒例行事とはいえ、合同パトロールには年に一、二度顔を合わせるメンバーがおり、「お久しぶりです」とか「今年もよろしく」など官民の垣根を超えた交流風景が見られる。また、異動で新たに参加された方は、夕張岳の保護活動にこれほどに熱意をもって取り組んでいる民間団体に対し、驚きの目で見ておられる。

その中に、今年着任された田之畑忠年空知森林管理署長さんがおられた。6月18日ヒュッテ開きには小林信男市教育長さん、渡辺秀美夕張警察署副署長さんとともに祝辞をいただいた。田之畑署長さんはヒュッテに宿泊された。



田之畑空知森林管理署署長

その夜、囲炉裏を囲んでの歓談の中で私は署長さんと話し合った。

「夕張岳に係る法的な規制は、森林法、国立公園法、文化財保護法、北海道条例などなどで網目のように保護や規制がかかっている。一草一石とも採取、移動などはできないと思う」

「うんうん」と頷かれる。

「登山道の管理は管理署の所管である。登山道には倒木や流水陥没による障害があり登山者の安全が万全ではない。それで、管理署の事前了解のもとで倒木の伐採や除去をしており、陥没して通行不能のところは數に踏み跡をつけて迂回するようにしている」

「協力に感謝します」と謝意をいただいた。

「ところで、ガマ岩の前後の登山路は笹が生い茂り、藪をかき分けて行かないと登山路が見えないような状態である。そこに木道があって突然途切れて段差になっているところがある。気が付かないまま歩くと空踏みのような状態で転倒してしまう。また、木の根が横断しており、見えないため躓いて転倒する。この辺りは厳格な保護地域なので、笹といえども切り払うわけにはいかないでしょうか?」

私からの迂遠な質問に対し、ちょっと間をおいて署長さんは「登山者の安全のために、危険な状態の笹を切ることは全く差し支えないですよ」と話された。

署長さんは、翌日のパトロール登山も同行され、頂上に立たれた。昼食をとりながら話し合った。

「木道の切れ目の段差がありましたね。危ないですね」「今度、会員で刈払うようにします」

7月7日、官民合同パトロールが行われた。この日は、パトロール活動に合わせて濡れた木道が滑って危険なため、滑り止めの横木を取り付ける作業と、管理署長さんとの話で可能となった笹藪の切り払い作業を行った。道警のヘリコプターが上空を旋回して監視活動をするなどのパトロール活動は新聞報道され、コザクラの会の評価を高めることができた。





渡辺夕張警察署副署長

女性会員も炊事棟の建設作業









雨竜沼湿原で交流

8月11日　会員　武田　一生

平成28年空知3団体交流学習登山会が8月11日雨竜沼湿原で行われました。

天候に恵まれ8時30分南暑寒荘前で雨竜沼湿原を愛する会高島会長の挨拶。

3団体12名は外山事務局長の案内で登山開始。ペンケペタン川の右岸を渡り山腹登って行くと白竜ノ滝を見下ろせる場所で休憩、さらに沢に沿って登り吊橋を渡り緩やかな斜面を登って行くと山腹から冷たい水が湧く水場でのどを潤し湿原まであとひと息となる。

湿原に着き木道を少し歩き休憩、木道付け替え工事の話、湿原の草花の説明を受けながら木道をたどって湿原を縦断すると湿原展望台（南暑寒別岳登り口）到着、昼食をすませ帰りは別の木道歩き20年以上前の踏み荒らし跡確認、雨竜沼湿原の課題と現状と問題点、ヒグマが食べ残した花の跡、ラムサール条約までの経過などについて佐々木副会長から説明がありました。

私も何度か雨竜沼湿原に来てますが温暖化現象か来る度にチシマササ、ヤナギ等の侵入が見受けられる。

雨竜沼湿原は、27年前私が初めて山登りをしたところで、山々の新緑、残雪、湿原に咲く草花などその時の風景が、目に焼き付いています。この雨竜沼湿原を、国民の祝日として「山の日」が制定された第1回目を空知3団体の皆さんと登山できたことを大変嬉しく思いました。





高山植物の保護、継続中！

会員　杉浦　晃介



毎年恒例となりつつある、夕張岳の高山植物をエゾシカの食害と踏み荒らしから保護する簡易防鹿柵と自動撮影カメラを7月9～10日に設置し、簡易防鹿柵内外の植生調査を7月24日に実施しました。設置の際は、会員の秋元さんと伊藤泰弘さんに資材の運搬を支援していただき、植生調査の際は今年も酪農学園大学・環境共生学類・野生動物保護管理学研究室の学生にお手伝いいただいて遂行することができました。



柵とカメラの設置の日は、下山時に雷雨に遭遇し、非常に危険な思いをしてしまいました。昨年度も下山時に同じような雷雨に遭遇していたこともあり、杉浦と秋元の組み合わせは、嵐を呼ぶ組み合わせだという事が証明されつつあります。それはさておき、これからも安全に十分に注意した調査としたいと思います。さらに、植生調査の際は、ヒグマと直前に遭遇していたこともあり、冷や冷やしながらの調査となりました。あらためて、ヒグマがごくごく普通に生活しているところで調査をしているという事を考えさせられました。

今年度で7年目の調査となりますが、根気よくこの調査をユウパリコザクラの会で続け、データを蓄積して発表できればと思います。今後も会員の方々のご支援ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い致します。

市営夕張岳ヒュッテの視察　6月29日及び7月26日

2008（平成20）年6月、市から管理運営を受託し、2013（平成25）年建替え竣工した市営夕張岳ヒュッテは、炊事棟の建設もボランティアで継続している実情を見ていただくべく市教育委員会と市議会議員へご案内したところ、各々視察してくださいました。







これも恋なのか ～初登山～

会員　菅原　もと代

3年前友人と見たある日。夕陽に照らされた夕張岳が息を飲む程綺麗で、ときどき遠くから眺めていた古里の岳は〝こんなに素晴らしかったんだ、いつか登ろう〟と気になっていた思いが、今回叶いました。登ってみるとそれはそれは、キツい岳でした。それなのに又登ろう、違う姿が見たい！と思いを抱いてしまいました。

今回は第4回森林パトロールで、コースロープを撤収するのも目的の登山ということで、コザクラの会のベテランの方4名とご一緒させて頂きました。

先日の台風後の登山道は所々樹が倒れて道を塞いでいて、先頭を歩くーさんが小鋸で小枝を切って道をつけ、周りの方とそれをサポートするところも何度も有りました。また水の流れが登山道を広げていれば、石を並べて流れの道を変えたり、登山者が放置したペットボトルやゴミを拾うなどの登山道整備、また咲いている高山植物等の確認をしたり、熊の糞を見かけては笛を鳴らして警戒する、記録を撮るなど、山のパトロールとはこういうことをするんだなあ、と当たり前の事なのだろうけど、この「当たり前」の重要性を強く感じました。

大きな自然の中には、たくさんの「気付き」があり、それが時に恐ろしかったり辛くても、それ以上に感動や驚き、優しさがあり、想像も与え、次を期待してしまう中毒性のある危険な相手なのだというのが、今回抱いた感想でした。

次に登ったときは一体どう思うのか「裏切られた」なのか「もう登らない」なのか、はたまた「素敵♡」なのか…それも楽しみにして春の夕張岳を待ちたい一緒させて頂いた皆さん、本当にありがとうございました◎



ロープ撤収

9月初旬に友人と個人的に夕張岳を登る計画は、台風10号の影響で林道が閉鎖になったので取りやめたところ、会の事務局から、パトロールを兼ねて登山道のコースロープを早めに撤収するとの連絡があって9月3～4日に友人と共に参加した。

初日は、電動工具を操作したり脚立に揚がったりして炊事棟作業を少しお手伝いした。夜は美味しい豚汁と楽しい会話、畳の匂いがする快適なヒュッテで就寝。ソーラーシステムのおかげでヘッドランプは不要でした。快適です！

翌4日は予定を少し遅れの6時過ぎに冷水コースからパトロールに出発しました。途中、倒木が行く手を阻んでいて、小枝を撤去しながら前進しました。

雨による登山道の影響は思っていたほどはなく、熊の落し物、掘り起こしが多く、足跡もあり、この方が気になりました。下山まで、熊の姿は見ませんでした。

シラネアオイ群生地の石原平、望岳台、吹き通しに張られているコースロープロープを撤収しました。ユウパリコザクラの蕾も確認できました。

第4回森林パトロール兼コースロープ撤収

会員　松下　陽子

頂上に到達すると、それまでかかっていたガスがなくなり青空になりました。今回初めて夕張岳に登ったという「もっちー」ことMさんと私の友人へのご褒美ですね。

吹き通しで、林道を自転車で来たという男性と遭遇。いつもは大勢の登山者が行き交う夕張岳ですが、林道閉鎖となった今、登山者は居ないものと思ってたので、思いもかけない事でビックリしたのと、その青年の熱意に感服しました。

彼曰く「羆が怖いので、鈴を沢山付けて来ました」。羆が怖くても夕張岳に登りたかったんですね。夕張岳も喜んでくれたことでしょう。

確かに鈴が沢山着いてました。

帰路は馬の背コースを下山、こちらも倒木がありましたが登山道はそれほど影響はなかった様に思います。

ヒュッテに着いたら、流しそうめんが出迎えてくれて美味しく頂き、ご馳走さまでした。

久し振りに夕張岳のパトロール活動に参加できて心地よい登山ができました。

会のうごき

4月
- 18日　会報「コザクラだより」102号発行
- 20日　平成 28 年度「みどりの日」環境大臣表彰出席　都内新宿御苑　2 名
  官房審議官へ、タ張岳が天然記念物指定 20 周年報告と自然環境保護推進を要望。
- 26日　北海道高山植物保護ネット　代表者会議　北大環境研　1名

5月
- 2日　鈴木直道市長、教育委員会、市議会議長、訪問　環境大臣表彰授賞の報告　藤井代表　他2名
- 2～4日　ヒュッテ炊事棟建設作業　3名
- 6日　森林管理署へ報告　融雪水によるゲート上部暗渠溢水で、林道最終駐車場及び登山入口への道路が洗掘された状況報告　藤井代表
- 9日　森林管理署より現地視察について連絡
- 14日　「タ張岳天然記念物指定20周年」のぼり旗10本作成し市内に設置
- 14日　平成 28 年度総会　規約、役員改選について
- 14日　タ張岳天然記念物指定20周年記念事業
  講演会「アポイ岳ユネスコ世界ジオパーク認定」まで
  講師　水野　洋一氏（アポイ岳ファンクラブ、様似町議会議員）
  会場　清水沢　市民研修センター　55名
- 21～22日　ヒュッテ炊事棟資材運搬　沼ノ沢～ヒュッテ　2名
- 23日　市教育委員会大島副市長、厚谷議長、空知森林管理署長訪問
  タ張岳ヒュッテ炊事棟建設に協力要請　長谷川ヒュッテ管理委員長、藤井代表、他1名
- 26日　タ張警察署長、空知総合振興局保建環境部長訪問　長谷川ヒュッテ管理委員長　他1名
- 27日　空知森林管理署川園氏来所　暗渠及び駐車場修繕に関して打ち合わせ　ミーティングルーム　事務局

6月
- 2日　タ張岳関係者協議会出席　タ張市役所　2名
- 3日　バイオトイレ運搬～設置作業　北大～タ張岳登山口駐車場　7名
  （市教育委員会認可）協力：ゆうばり観光協会
- 3～5日　駐車場、作業道洗掘後の補修作業（森林管理署認可）4名
- 11日　安全登山研修会　清水沢地区公民館　15名
  講師　長谷川雄助　元日本山岳会北海道支部長
  ヒュッテ炊事棟テント設営整理　環境美化清掃　8名
- 12日　第1回森林パトロール　登山道補修兼コースロープ整備、清掃登山　13名
- 18日　平成 28 年度タ張岳ヒュッテ開き　20名
  タ張岳関係者協議会加盟団体出席、森林管理署長ヒュッテ宿泊　情報交換行う
- 19日　官民合同パトロールキャンペーンに協力　15名
- 29日　市教育委員会、常務委員、タ張岳ヒュッテ視察　7名　当会対応　長谷川ヒュッテ委員長　他2名
- 29日　タ張小学校石丸校長訪問　藤井代表

7月
- 1～2日　ヒュッテ炊事棟建設、道路補修作業　9名
- 3日　第2回森林パトロール雨天中止
- 7日　官民合同監視パトロール　エゾ鹿調査（道庁）に協力　当会6名、合計25名
- 9～10日　エゾ鹿対策　防鹿柵、自動カメラ設置作業　4名
- 16～17日　アポイ～ユウパリ交流タ張岳学習登山　アポイ岳ファンクラブ4名、当会8名
- 22日　タ張小学校石丸校長訪問「南極授業」企画書作成の説明　藤井代表
- 23～24日　第8回旧産炭地域子ども交流事業
  一日目　体験学習　山習字先生　比志道子、山の先生　杉浦晃介
  二日目　タ張岳登山　参加者　子ども 15 名、成人 12 名、スタッフ 20 名
- 24日　エゾ鹿食痕跡、高山植物希少種調査協力　酪農学園大学生有志
- 26日　タ張市議会議員団、タ張岳ヒュッテ視察　12名　当会対応　河村ヒュッテ事務局長　他1名
- 30～31日　ヒュッテ炊事棟建築作業

8月
- 6～7日　ヒュッテ炊事棟建設作業　5名
- 11日　空知管内3団体交流研修登山　雨竜沼湿原
  峰山自然保護協議会5名、雨竜沼湿原を愛する会3名、当会4名
- 11～14日　ヒュッテ炊事棟建設作業　2名
- 21日　第3回森林パトロール　雨天（台風９号）中止、ヒュッテ前　3名
- 20～21日　ヒュッテ炊事棟建設作業　4名
- 23日　台風 11 号による大雨　林道パトロールで決壊個所発見　関係個所へ報告　ヒュッテ管理人撤退
- 27～28日　ヒュッテ炊事棟建設作業　5名

9月
- 3～4日　ヒュッテ炊事棟建設作業　10名
- 4日　第4回森林パトロール　コースロープ撤収　5名
- 10～11日　ヒュッテ炊事棟建設作業　3名

尿を搬出しました

7月下旬、男子の小便を溜める200㍑タンクが満杯に近づいたので、ポリの一斗缶8本に取り出して、駐車場にある貯留タンクへ移送しました。一時的に保管しておき後日バキュームカーが搬出するのです。



ガイドマップ用スタンプ



3月発行した「タ張岳自然ガイドマップ」の記念スタンプ押印欄というスペースに押すスタンプを作りました。直径6・5㎝です。タ張岳ヒュッテに常置してます。

天然物指定20周年をPRする幟旗を作りました

今年は、夕張岳が「高山植物群落及び蛇紋岩メランジュ帯」として国の天然記念物に指定されて 20 周年となりますが、公的には何も動きが見られないので、当会が勝手に幟旗を作って登山口や国道に立てて周知することにしました。



国道 452 分岐点



南富良野金山口

駐車場にバイオトイレ新設

今年度シーズン開始の6月19日、夕張岳登山（夕張コース）口への林道終点駐車場脇にオガクズを使った据え置き型バイオトイレを設置しました。

某所で不要になったものをゆうばり観光協会のご協力により入手できたものです。

糞尿の成分は殆どが水分で、その水分をオガクズが保水し、攪拌して蒸発させて残る約10%の固形分を腸内細菌と自然界の微生物の働きで分解処理し、蒸発も分解もしない無機成分は粉状態でオガクズに吸着され、理想的な有機肥料として年数回の交換で排出するという方式のものです。

駐車場には攪拌する電気がないので、ヒュッテの管理人さんが朝と夕方エンジン発電機を運転するために通いました。





会費の継続納入・ご寄付ありがとうございます

夕張岳の自然に興味のある方、当会の活動に関心をお持ちの方は、ユウパリコザクラの会へ入会又はご寄付をよろしくお願いいたします。

年会費 2,000 円　家族会費 3,000 円
名　義：ユウパリコザクラの会
ゆうちょ口座：02780-9-43747

引き続き　夕張岳ヒュッテの維持と炊事棟建設にご支援を!!

平成 28 年 4 月～平成 28 年 8 月末現在
59 口　185,419 円　ありがとうございます。

炊事棟建設作業は順次進行中ですが、平成29年6月のシーズン開幕時には流し台などの水回り部分が使える様に頑張ってます。資材他諸費用が不足してますので今一度のご支援をよろしくお願いいたします。

名　義：夕張岳ヒュッテ管理運営委員会
ゆうちょ口座：02750－6－97634

夕張岳を挟んで夕張市と接する南富良野町は、８月末の台風１０号による豪雨に見舞われて被害に遭われた方々にはお見舞い申し上げますと共に、一刻も早く復旧が進みますよう祈念いたします。

103号の発行が大変遅れましたことお詫びいたします。